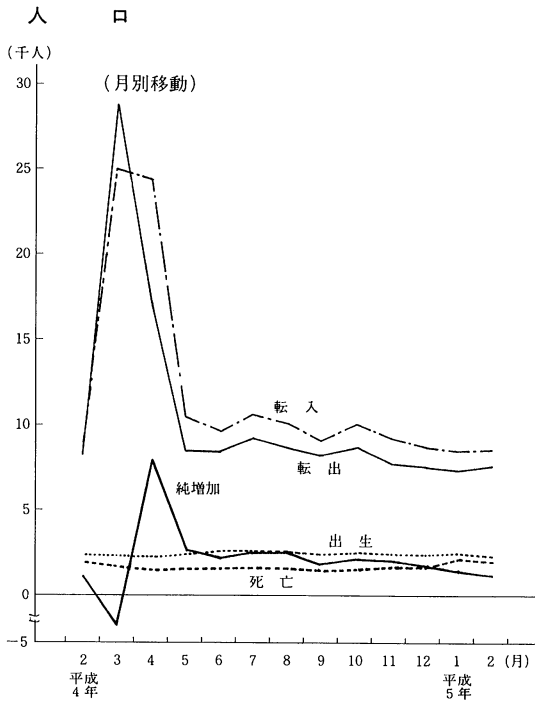
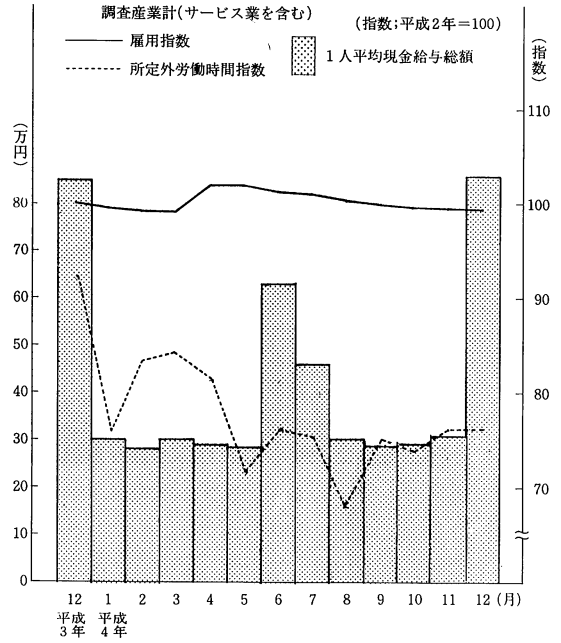


● 今月の主な動き

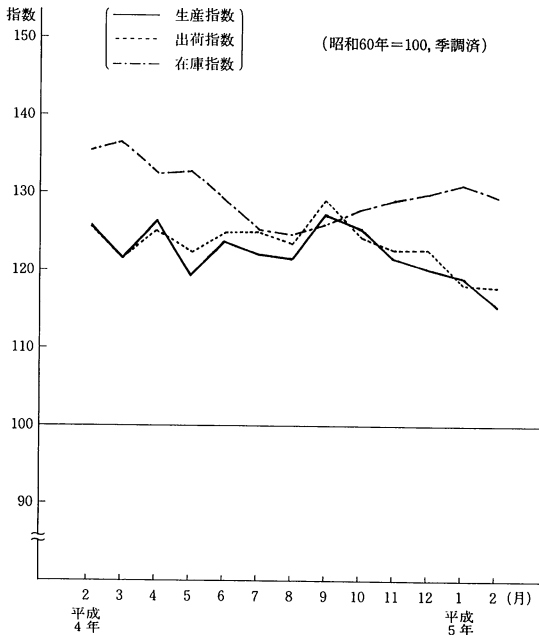
今月の主な動き



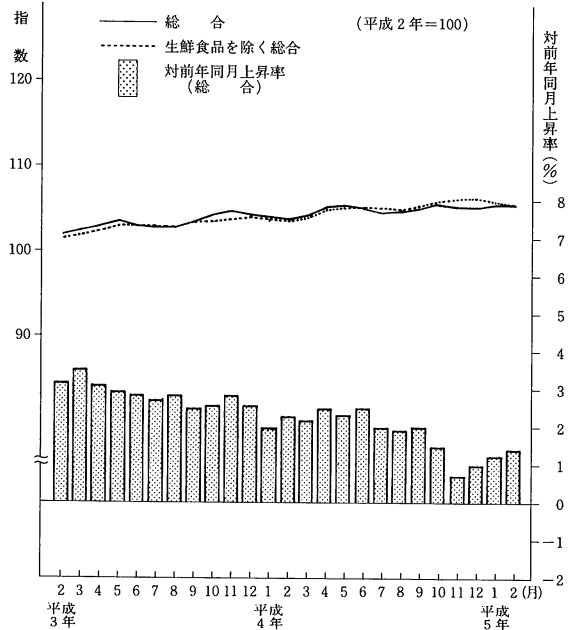
賃金・労働時間・雇用



鉱工業指数(生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口(3月1日)

本県の人口は、2月中に1,275人増加し、3月1日現在で2,913,287人(男1,455,343人、女1,457,944人)となった。

内訳は、自然動態で287人(出生2,142人、死亡1,855人)増加し、社会動態で988人(転入8,841人、転出7,853人)増加した。前年同月と比べると24,907人(0.86%)の増加で

ある。

市町村別では、増加が12市41町村、減少が8市25町村、増減なしが1村である。

世帯数についても2月中に760世帯増加し881,680世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用(12月)

(注) 毎月勤労統計調査の対象事業所の抽出替えとそれに伴う指数補正のため平成5年1月分以後については、後日公表となります。

1. 平均賃金の推移

12月の現金給与総額は、調査産業計で861,696円、対前年同月比1.2%増、このうち、きまって支給する給与は291,246円、対前年同月比2.3%増であった。また、このうち、所定内給与は264,287円、対前年同月比4.0%増であり、超過労働給与は26,959円、対前年同月比11.6%減であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比0.7%増であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

2. 労働時間

12月の総実労働時間は、調査産業計で165.5時間、対前年同月比4.3%減であった。このうち、所定内労働時間は150.6時間、対前年同月比2.8%減、所定外労働時間は、14.9時間、対前年同月比16.8%減であった。

3. 雇用の動き

12月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比0.5%減であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(2月分)

本県における平成5年2月の“鉱工業指数”(昭和60年=100)は、季節調整済指数で、生産が115.6、出荷が118.2、在庫が129.7で、前月比は、生産が△5.4%の低下、出荷が△1.6%の低下、在庫が△1.5%の低下であった。

前年同月比(原指数)は、生産が△8.4%の低下、出荷が△6.1%の低下、在庫が△4.7%の低下であった。

業種別に前月比をみると生産では、非鉄金属工業、化学工業、パルプ・紙・紙加工品工業等が上昇し、鉱業、一般機械工業、精密機械工業等が低下した。出荷では、鉄鋼業、

非鉄金属工業、石油・石炭製品工業等が上昇し、鉱業、電気機械工業、精密機械工業等が低下した。在庫では、鉱業、輸送機械工業、化学工業等が上昇し、食料品・たばこ工業、非鉄金属工業、鉄鋼業等が低下した。

特殊分類別にみると生産では、非耐久消費財等が上昇し、耐久消費財、資本財等が低下した。出荷では、鉱工業用生産財、建設財等が上昇し、耐久消費財、資本財等が低下した。在庫では、その他用生産財、耐久消費財が上昇し、非耐久消費財、資本財等が低下した。

■消費者物価指数(2月)

平成5年2月の茨城県消費者物価指数(県平均)は、総合で105.6(平成2年=100)となり、前月比は変わらなかったが、前年同月比1.4%の上昇となった。

今月の上がった主な項目……野菜・海藻2.8%、果物1.5%、乳卵類1.3%、保健医療用品・器具1.1%

今月の下がった主な項目……衣料4.3%、シャツ・下着4.3%

生鮮食品を除く総合は105.8となり、前月比は0.2%の下落、前年同月比は1.8%の上昇となった。

費目別指数

(平成2年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	105.6	0.0	1.4	保健医療	101.9	0.3	2.2
食料	106.0	0.5	△0.2	交通通信	100.5	△0.1	0.2
住居	111.2	0.4	4.9	教育	106.1	0.0	3.4
光熱・水道	103.1	0.0	0.8	教養娯楽	108.6	0.5	2.2
家具・家事用品	101.6	0.2	0.5	諸雑費	104.6	0.2	1.9
被服及び履物	103.8	△3.2	1.7	生鮮食品を除く総合	105.8	△0.2	1.8